

今日の説教の題は「真の天一国建設」です。

創世記第一章27~31節を読みます。

27 神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された。28 神は彼らを祝福して言われた、「生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ。また海の魚と、空の鳥と、地に動くすべての生き物とを治めよ」。29 神はまた言われた、「わたしは全地のおもてにある種をもつすべての草と、種のある実を結ぶすべての木とをあなたがたに与える。これはあなたがたの食物となるであろう。30 また地のすべての獣、空のすべての鳥、地を這うすべてのもの、すなわち命あるものには、食物としてすべての青草を与える」。そのようになった。31 神が造ったすべての物を見られたところ、それは、はなはだ良かった。タとなり、また朝となった。第六日である。

興味深い時、深刻な時に生きています。韓お母様の指導のもとに行われたことはこれまでも見てきました。天国建設にはアダムとエバが責任をもたなければならないというのが創世記一章の示す原理です。

先週、最後のハトを裂かなかった瞬間にサタンが奪って行ったという話をしました。お父様の数々の偉業を変更することはもはや天国建設の目的と神様からはずれています。

聖典を削除しある部分では80%も消し去ってしまいました。とてつもなく大きな罪です。天一国国歌も投げ捨てました。家庭盟誓も聖婚問答も変更し、女神を導入することで神様の概念を変更し今や二神論を教え摂理から脱線しました。原理を排除した天一国憲法は、お父様を背信した清平を中心勢力とする奴隷制度を定める一片の紙切れに過ぎません。

韓お母様は自身の位置を離れ、お父様に対して主体の位置に立ち、自分を神、メシア、独生女と称して韓氏族をお父様の血統の上に置き、ついにはお父様の王座にまで登るまでになりました。祝福式からはお父様の血統すら排除してしまいました。

法的手段を講じてお父様の顔(統一マーク)を隠すことまでしました。そして私達(亨進様、国進様)が絶対この道だけは進まないで下さいと懇願した道に足を踏み入れました。破壊とナルシズム、神様から打ち碎かれる道です。(お父様の席に座る写真を指して)本然のエバの位置を離れる姿を私たちはこの目で見ました。そしてお父様の名前のない韓鶴子とのみ刻印された何千もの祝福リング。祝福式にメシアはいないのです。

これを見ただけでも皆ショックを受けるでしょう。

全体主義者たちはお父様のこの直筆の宣布文を見たくないでしょう。相続者、代身者が誰であるのか分かるか

ら。そして「その他の者」は異端者、爆破者であることも同時に分かるからです。そして彼らは「その他の者」です。それを認めたくないだけに過ぎません。彼らはお父様の(権威の)篡奪者であり冒涇する者達です。

そして今、安息年(シュミータ)のただ中にいます。シュミータには内的な摂理の結果が外に現われます。背信、冒涇行為、神様から離れる、傲慢、変節などを人々が犯す時、神様は警告を送られます。NYダウ平均株価は下がり、ロシアと中国はドルを使わず貿易し、そして史上初めて露中共同軍事演習を行いました。世界同時株安。2001と2008のシュミータと同じパターンですがより大きなうねりとなってシュミータの最終日、9月13日に向かっていきます。まさにお父様の聖和3周年と同時に起こっているのです。お父様が、私たちが不信に陥ると韓半島の半数が死に、日本は海に沈むだろうとかつて予言されたことがあります。人々が神様の叫びに耳を傾けようとしないほど反抗的になった時これらのことは起こります。

降ってわいたようにMERSウィルスが韓国を襲い文字通り清平を閉鎖しました。半年前に語ったことです、清平の閉鎖が審判の兆候となるだろうと。そして今週、北朝鮮と南の韓国が武力衝突を起こしました。一時戦争状態になったのです。

深刻な話です。

神様から離れ去り、冒涇し、神様からの恵みで豊かになったのではなく全部自分でつかみ取ったものだと傲慢になるとき、天から明らかな警告が与えられます。われわれはそのコースを今走っています。そして49年に一度来る安息年(スーパーシュミータ)のクライマックスを迎えました。

一週間後にここでの祝福式を控え、その準備に大変なことになっています。8月30日は天宙的な式典を行いますが、それはお父様の聖和後の三周年でありその3年が終わればお父様が直接により強力で主管できる時代が来ます。3年の喪が明けるからです。その時がそこまで来ています。

神様の意図はどこにあるのでしょうか。人類を滅ぼすために審判されるのではありません。それなら警告などされないでしょう。悪しき道から悔い改めることで神様の許しと愛を受けること、そして天国を再建することを願っておられるのです。単に霊的な悔いあらためただけではなく天国の再建に取りかからなければなりません。

審判の後どのような天国を建設すべきか。神様の御心を地上に現わすこと。

ここでサタンの王国と神様の王国を比較してみましょう。サタンはこの世の君であり、この世を支配する闇です。サタンのシステムは一今の墮落した家庭連合もそうですが一奴隷制です。実際的、具体的に人々の生活に関わってきます。自由な社会の自由モデルはその対極にあります。

サタン側は中央政府、中央集権。巨大な金融界と結託して財政的、金銭的に隷属させるやりかたです。その結果、一生借金の返済のために働くことになります。この奴隷制、金銭的奴隷制は全世界を今日おおっています。

教育ではサタンの側の公教育を通した「教え込み」です。徹底的に反復訓練して子供達にこうあらねばならないと教え込みます。同性婚も認めないと人種差別だ、などと。そこでは自発的な学び、良心に従って行動し、神様が本心に植えたルールに従って学ぶということがありません。

それに対してホームスクール(家庭での教育)を提唱します。

また医療については世界では病気が起きてから対応するという SICK CARE が行われ巨大企業が独占しています。それに対しては病気になる前に積極的に健康に気を配る HEALTH CARE を提唱します。

また安全に関しては今の世界では国家が全て管理していますが、それに対して各個人が自分自身と家族を守れるようにしなければなりません。

以上は大切なことです。一週間後には祝福式を行います、そこで終わりではありません。引き続き神様の天国再建の仕事は続きます。前進していかなければなりません。そのために私たちは開拓精神を持って、侵略者から自分と家庭を守る方法を学んできましたね。自分の住居に対して主人意識をもち、神様の被造物の主権者として責任を持って小さな天国を守るのです。私たちはこの荒野で学んでいます。

この世が、サタンがつくりだしたシステムから離脱する仲間も多いのです。そのシステムとは、小学校、中学、高校、そして奨学金を得て大学に進学し20年かけて返済。結婚して2、3人の子供を産み、ローンで家を買う。そのローンを60、70になるまで払い続ける。これがこの世の普通の人の生活であり証です。

しかし私達の多くはその道を選びません。サタンがこの世で作りだした仕組みを拒否します。サタンが「これが現実の生活だ」と思わせているものを拒否します。

私は子供に奨学金はもらうなどと言っています。高校を出て仕事を身につけお金の稼ぎ方を学ぶのです。そしてお金を貯めたらオンラインコース(インターネット)の大学で学べばよいのです。借金なしで自分のペースでゆっくり学べばよいのです。大学を卒業しなくても良いではありませんか。4年制大学を卒業しなければ人生成功しないなどという法則はないのです。それはサタンが仕込んだ仕組みに過ぎません。

私たちはむしろ既存の文化に反する道を進みます。その意味では神様を中心として急進的で過激かもしれませんが。責任ある人として、とてつもなく自由だということです。天国の中心者としてとても重要なことです。金銭的にも負債のない生活です！とくに若者にとってこれは重要なことです。

ですからサンクチュアリ教会としても、そのような組織、そのような運動を進めていくつもりです。私たちはここでお父様を冒涇した家庭連合を糾弾しているだけではないのです。もちろん真実を語らなければなりません、それと同時に現実に天国を建設していかなければならないのです。社会主義でも共産主義でもない、自由と責任に基づく自由な社会です。お互いを神の似姿として尊び一緒になって共通の使命を果たすのです。

それは神様の栄光を現わすことです。子供たちを洗脳センター(学校)に送りたくありません。そこではいつでも政治的中立(ポリティカル・コレクト)であることを求められます。学校の先生に逆らえば即、悪者です。大学もまた性的に洗脳が行われる場所です。大学に入ればすぐにわかることですが、大学は相対主義的でないものを一切認めない所です。とくに性的相対主義がそうです。「伝統的な結婚」をもちだすと「なんて古臭い。両親から教え込まれたんでしょ。」「他も試してみれば？」と言われます。

こうアドバイスしたいですね。「大学？奨学金の返済を負わなければならない。まずは働いて仕事をしてキャリアを身に付けてお金に余裕ができれば大学に行けばいい。物理的な大学施設に通わなくてもインターネットの時代、オンラインコースで学べばいいではないか。性的なこと、どうでもいいことを教え込まれずに自由でいることができる。」大学に行かなくても技術やテクノロジーを習得することはいくらでもできます。そこには選択の自由があります。相対主義者、共産主義者から一律にスタンプを押される世界ではないのです。

また「小さな家」運動に関わる人も多いのです。小さな家で暮らすと幸せになれないなんて誰が言いましたか。この運動は今全米に広がっています。

(貨物船に積む)コンテナを家にするのです。多くの若者が60、70まで家のローンを払い続けなくても25歳までに自分の家が持てる、自由を享受できるとこのコンテナハウスに関心を持っているのです。私達の中でも多くの方が子供達に自力で自分の家を造ることを進めています。負債の返済のために残りの人生を捧げるよう仕組まれた金融システムに組み込まれる必要はないではないですか。他に道があります。サンクチュアリ教会ではそれも研究しています。

このコンテナハウスをご覧ください。

このように創造力を駆使ながら具体的な形で天一国を具体化する方法、天国生活をどのように送り天一国の一つの家庭をどのように具体的に築いて行くかについてサンクチュアリに来る人達は考え始めています。古いシステム、サタンの支配を受ける奴隷にはなりません。

狭い空間ですが自分で主管する誰も自分達をそこから追い出すことのできない所有物です。これらすべてのことを私たちは研究しています。サタンと大きな舞台で戦う一方で、多くの人々に現在の医療システムに頼らず、予防医療の教育を施してもいます。有機野菜を自分たちで栽培し、狩りの仕方を学び、神の恵みを利用する自給自足の生活です。別の道を探っているのです。

サタン世界は、こうあらねばならない、これをしてはいけない、既存のシステムに乗らずに多額のお金を大会社や銀行、学校に払わないでいくなど気が狂っているというでしょう。それに対して「神の祝福あれ」と言いましょ。

私たちは自由がいいのです。気違いというならそう呼びなさい。責任を伴った自由があるとき幸せなのです。この地の管理者です。被造物をそのまま用いるのです。

私は狩猟にはもう15年以上行ったことがありません。まだ兄弟が幼いときに何度か行ったきりで15年以上行っていません。何度も話しましたが、狩りではとんでもない体験をしたことがあるのです。兄達とアラスカに鹿狩りに行った時一日中否定され叱られ続けて拷問の様でした。それから行かなくなりました。

狩りそのものがどうこうではなく、その時の体験がもとです。

しかしこの荒野にやって来て、知恵を使って自給自足の道を歩んでいます。ブッシュクラフトやサバイバルの訓練をしました。妻も一緒になって荒野で訓練しています。これは一緒になった人と取った写真です。

凍えながらベーコンとベーグルを食べました。生き抜く訓練、極限でのトレーニング、自分を追い詰めました。

荒野はミドバー(ヘブル語)ですがこれはダバーという言葉から来ています。ダバーは神様のみ言を意味します。ミドバー(荒野)でダバー(神様のみ言)に出会うということです。

一旦現実世界から離れゲーム、テレビの虚構世界から離れ、生の現実世界に踏み込む。そこで神様に会います。深い森に入り、湖で泳いだり、鹿狩りをする。海に出て釣りをする。神様が創造され、私達に「従わせよ」と命じられた自然に出ていくのです。そこでみ言に出会います。

シュミータ(安息年)の終わりが迫っています。審判もあるでしょう。しかし今日私がこのような話をするのは前進しなければならないからです。世代を超えて子供達に成功の秘訣を相続させるために、自由と責任の下、子孫が家族を養っていけるように、天一国の主人となるためにこのように話すのです。8月30日が終わりではありません。その先へと進むのです。天国を建設するのです。

また手作りの家を開発しています。開拓者たちの様に電動器具は用いず、ナイフなどを使うだけです。このようにして得たスキルは忘れません。いつの日か妻のために作るでしょうし、子供達のためにも作るでしょう。自力で行うことを考えるのです。

あの配給を受けようとかあそこから何をもらおうとか考えずに、自由でいたいからここにいるのだ、そこに責任を持つのだと。神様から賜うもので成功し豊かになるのだと。神様は私達に偉大な創造力を下さいました。

お父様の理想を維持するだけでなく、お父様の暮らし方で同じ生活を送ろうとしているのは世界でもサンクチュアリ教会だけでしょう。自然の中で創造力を発揮する。アマゾンのジャングルや太平洋の大自然の中に飛び込み現実の世界に飛び込んでいく。テクノロジーのプラグをすべて抜いてリアルな世界に自分をつなぐこと。お父様のみ言の中には自然が溢れています。天聖經でも海洋摂理、自然摂理、農業摂理に大きな部分を割いています。正直に言いますが、長い間その部分は読まなかったのです。このようなみ言です。

今日まで最も悲惨な世界からすべてを乗り越えてきました。だから知らないことはないというのです。できないこともありません。どんなことでもできるのです。農村に行けば農民の王になるのです。この土地にはどういうものを

植えるとよいか分かるのです。海に行けば漁の王様になるのです。マグロ釣りでは「レバレント・ムーン方式」はすでに有名です。〈天聖經英語版1905〉

お父さまにとって不可欠な世界なのです。それを都合よく隠したり脇によけたりしていますが、よくよくお父様の生活を見れば生活の大部分を自然の中で過ごされていたのです。ネバダのミード湖で灼熱の太陽のもとで、あるいは3メートルの波にも揉まれながら、またあるときはワニや大蛇がうようよいるアマゾンのジャングルで、お父様はいつも荒野や大自然の中に入って行かれました。

天聖經には「わずかなお金でも快適に豊かに暮らせる」というみ言があります。これは自主独立による生活、神様から賜ったもので天一国市民として生活し成功し前進することを教えて下さっているのです。

これはお父様の教えの本質的な内容です。お父様の生活の本質的部分でもありました。

「科学技術の力で海の水を十マイルでも百マイルでも何千マイルでも海から離れた場所に引くことができます。養殖設備を山の上に必要な数だけ作るができるということです。天聖經より」

シュミータ(安息年)にあつて多くの人々がこれといった備えもない時に、お父様は十年以上も前にこれを考えておられたのです。養殖工場、自給の工場を世界中に建設することです、自由と自己責任を持って！中央集権的でも共産主義的でもありません。メシアはそのようなことは言っていないのです。究極の独立独行です。

土地と一つになること神様の被造物との授受作用です。まったく既存の文化とは異なるものです。私たちが部品として必要とする巨大なシステムではありません。全く自由な世界です。働きかけることで創造性を呼び醒ますものです。それを子供が学び世代を超えて伝えて天国建設のために行くのです。

お父様は「動物を、トラまでも狩りする時が来る。狩猟用の狼を育てて狩場に放つこともできる。熊を狩り、他の動物も狩りのために育てることができる。(天聖經1848)」とおっしゃいました。実際カナダで鹿を育てたのです。

これも隠すのです。お父様は銃を触ったことがないですって。いいえ、お父様は12ゲートのショットガンを撃っていました。メシアだから武器なんて手にするはずがなどと言わないで下さい。

いろんな狩猟で、マグロ釣りでもショットガンを使われました。それが現実です。周りから隠されたお父様のお姿であり、皆に知らせたくないお父様のお姿です。お父様はどこまでも独立独行のお方です。文明を築くためには未開のジャングルも恐れませんでした。

誰かに麦わら帽を借りました(笑) 太平洋です。3メートルの波が寄せる海に92歳のお父様です。信じられません。信じられないくらい怖いのです。船は大揺れで胃が文字通り口まで上がってくる感じです。こういう環境、生活がお父様に力を与えたのです。豪華な宮殿ではなく自然の中を好まれました。

向こうにペク島が見えています。

あなたが行きたかろうが行きたく無かろうが関係ありません。前の晩にやめておきましょうと言っても無駄です。行くのです。

お父様に付いてパンタナールのアマゾンのジャングルに行った時のことを思い出します。お父様がそこを離れている間私はサンパウロにいてブラジル柔術を習っていました。お父様が戻ってこられたら小さな飛行機に乗ってアマゾンに戻るのです。川にはいつもワニがいます。最初、このような蚊や黒バエが飛び回る所、川にはピラニア、陸にカピバラもたくさんいるこの地にどうしてお父様は連れてこられたのかと不満を持ちました。

ペンシルバニアに来てから子供達は蚊がいると文句を言いますが「おまえたちは本当の蚊を知らない」と私は言いました。パンタナールに行けば蚊はこんなに大きいしハエもこんなに大きい。

またその時私たちは愚かにもアマゾンの川で泳ぎ回ったのです。あまりにも無知でした。国進兄さん、顕進兄さんと私で川に入ったのです。小さな滝もあるし、木にぶら下がり飛び込んだりしていました。その滝で人が亡くなったことを後で知りました。泳いでいる時に岩に潜むアナコンダが見えたので別の所に行って泳いでいました。後で聞いたのですが底にはアカエイがいて踏めば刺されて死んでいたと言われました。首ほどの深さのワニだらけの川を泳いでいたことになりす。神様の御手が私たちを守って下さいました。そうでなければ何かの餌になっているところでした。その経験は忘れることができません。

私の子孫教育ではその感覚を少しでも味わわせることができればと思っています。その通りさせるというのではなく、神様の被造世界の中でその感覚を味わうということです。非常に価値のある、天一国の鍵になるものです。

次の世代が大理石の宮殿で育つことを想像してみてください。贅沢な中で周りの者が何でもしてくれる環境。斧ものこぎりも持つこともなく、ナイフの使い方も銃の撃ち方も知らない。それでどうして天国が作れるのでしょうか。せいぜい過去の独裁者と同じものしか作ることができないでしょう。君主制はサタン力を借りて作られるのです。

私は家など欲しくありません。いつ追いだされるか分からないからです。だから丸太小屋を造るのです。何かあった時の臨時の避難場所です。電気もガスも水道もありませんがとっておきの場所です。息子が5歳のいここに、「僕らいつ追いつかれるかもしれないから荒野に住むかもしれない」というのです。これが生きる力です。素晴らしいことではありませんか。恐れることなく闇と荒野に向き合う。恐怖に慣れるのです。

私たちは祝福式に向かっています。お父様の権威に戻ろうとしています。宇宙的な変動が起こり、世界的審判がなされたとしても神様は天国を必要としています。

どこかに出発点を求められるでしょう。これまでの歴史に見られたような独裁的中央集権的なやり方ではなく自由な結びつきで成すのです。神の自由な責任ある民として、神様を尊び自らへりくだる者として、隣人を助け、中央政府をあてにせず私たちが互いに助け合い、互いの兄弟になるのです。全く対抗文化的ではありますが、神様の摂理の進め方についてとてもアメリカ的な考え方だと思います。

前に進むことが大切です。世界の多くの方がここに来る準備をしていることでしょう。しかし誰もそれを強制しません。私たちはサタンのやり方、中央権力を用いて天一国を築くようなことはしません。神様との関わり、神様の恵み、世代間の関係に根ざした、既存の社会が用意したものを越えた、メシアの道に従ったやり方で築きます。

出典: ブログ・三代王権と一緒に父様に帰ろう

<http://h2fanclub.blogspot.jp/>